

佐倉市における指定地域密着型通所介護事業所等の設備を利用し夜間及び深夜に指定地域密着型通所介護等以外のサービスを提供する場合の事業の人員、設備及び運営に関するガイドライン（案）

## 目次

- 第1 総則
- 第2 人員に関する指針
- 第3 設備に関する指針
- 第4 運営に関する指針

## 第1 総則

### 1 目的

佐倉市における指定地域密着型通所介護事業所等の設備を利用し夜間及び深夜に指定地域密着型通所介護等以外のサービスを提供する場合の事業の人員、設備及び運営に関するガイドラインは、佐倉市が所管する指定地域密着型通所介護事業所等において宿泊サービスを提供する場合における遵守すべき事項を定めることにより、当該宿泊サービスの安全の確保及び宿泊サービス事業者による健全なサービスの提供を図り、もって当該宿泊サービスを利用する者の尊厳の保持に資することを目的とする。

### 2 定義

- (1) 「宿泊サービス」とは、介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第8条第17項に規定する地域密着型通所介護、同条第18項に規定する認知症対応型通所介護又は第8条の2第13項に規定する介護予防認知症対応型通所介護の指定を受けた事業者（以下「指定地域密着型通所介護事業者等」という。）が、当該指定を受けた事業所（佐倉市所管のものに限る。以下「指定地域密着型通所介護事業所等」という。）の営業時間外に、その設備を利用し、当該指定地域密着型通所介護事業所等の利用者に対し、排せつ、食事等の必要な介護その他の日常生活上の世話について、夜間及び深夜に指定地域密着型通所介護以外のサービスとして提供することをいう。
- (2) 「宿泊サービス事業者」とは、宿泊サービスを提供する者をいう。
- (3) 「宿泊サービス事業所」とは、宿泊サービスを提供する事業所をいう。
- (4) 「利用者」とは、指定地域密着型通所介護事業所等を利用している者であって、当該指定地域密着型通所介護事業所等が提供する宿泊サービスを利用する者をいう。

### 3 宿泊サービスの提供

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者の心身の状況により、若しくは利用者の家族の疾病、冠婚葬祭及び出張等の理由により、又は利用者の家族の身体的及び精神的な負担の軽減等を図るために、一時的に居宅において日常生活を営むのに支障があり宿泊サービスの提供を希望する者を対象に、宿泊サービスを提供すること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスの提供に際し、利用者の状況や宿泊サービスの提供内容について、法第46条第1項に規定する指定居宅介護支援事業者又は法第58条第1項に規定する指定介護予防支援事業者（以下「指定居宅介護支援事業者等」という。）と必要な連携を行い、必要な宿泊サービスが位置付けられた居宅サービス計画又は介護予防サービス計画（以下「居宅サービス計画等」という。）に沿って、宿泊サービスを提供すること。

この場合において、居宅サービス計画等への宿泊サービスの位置付けは、指定居宅介護支援事業者等の介護支援専門員等により、あらかじめ利用者の心身の状況、家族の状況及び他の介護保険サービスの利用状況を勘案した適切なアセスメントを経たものでなければならず、安易かつ漫然とした計画への位置付けは認められるべきものではない。

- (3) 宿泊サービス事業者は、(1)の趣旨に鑑み、緊急時又は短期的な利用に限って、宿泊サービスを提供すること。

この場合において、利用者の日常生活上の世話をを行う家族の疾病等のやむを得ない事情により連続した利用が予定される場合においては、指定居宅介護支援事業者等と密接に連携を図った上で、他の介護保険サービス等への変更も含め、利用者の心身の状況及び利用者の家族の事情等に応じたサービスを検討すること。

- (4) (3)に規定するやむを得ない事情により連続した利用が予定される場合であっても、利用者に連続して宿泊サービスを提供する日数は原則30日を上限とすること、かつ、利用者に宿泊サービスを提供する日数については法第19条第1項に規定する要介護認定の有効期間又は同条第2項に規定する要支援認定の有効期間のおおむね半数を超えないようにすること。

### 4 宿泊サービス事業者の責務

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立った宿泊サービスの提供に努めること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を継続できるように配慮しながら、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話に係るサービスの提供を行うこと。
- (3) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスの提供及び運営に当たっては、建築基準

法（昭和25年法律第201号）、消防法（昭和23年法律第186号）、労働基準法（昭和22年法律第49号）その他の法令等を遵守すること。

## 第2 人員に関する指針

### 1 従業者の員数及び資格

宿泊サービス事業者が、宿泊サービス事業所ごとに置くべき従業者（以下「宿泊サービス従業者」という。）の員数及び資格は次のとおりとすること。

(1) 宿泊サービス従業者は、宿泊サービスの提供内容に応じ必要な員数を確保することとし、宿泊サービスの提供を行う時間帯（以下「提供時間帯」という。）を通じて、夜勤職員として介護職員又は看護師若しくは准看護師を常時1人以上確保すること。

(2) 宿泊サービス従業者のうち介護職員については、介護福祉士の資格を有する者又は実務者研修若しくは介護職員初任者研修を修了した者であることが望ましいこと。

また、それ以外の介護職員にあっても、介護等に対する知識及び経験を有する者であること。

(3) 食事の提供を行う場合は、食事の介助等に必要な員数を確保すること。

(4) 緊急時に対応するための職員の配置又は提供時間帯を通じた連絡体制の整備を行うこと。

### 2 責任者

宿泊サービス事業者は、宿泊サービス従業者の中から責任者を定めること。

## 第3 設備に関する指針

### 1 利用定員

宿泊サービス事業所の利用定員は、当該指定地域密着型通所介護事業所等の運営規程に定める利用定員の2分の1以下かつ9人以下とすること。ただし、2（2）アの基準を満たす範囲とすること。

### 2 設備及び備品等

#### (1) 必要な設備及び備品等

宿泊サービス事業所は、宿泊室並びに消火設備その他の非常災害に際して必要な設備及び宿泊サービスを提供するに当たり適切な寝具等の必要な備品を備え、当該指定地域密着型通所介護事業所等の運営に支障がないよう適切に管理すること。

この場合において、当該指定地域密着型通所介護事業所等の設備及び備品等を

使用する場合は、当該指定地域密着型通所介護事業所等の利用者のサービス提供に支障がない範囲で使用する。

(2) (1)に掲げる宿泊室及び消火設備その他の非常災害に際して必要な設備の基準は、次のとおりとする。

#### ア 宿泊室

(ア) 宿泊室の定員は、1室当たり1人とする。こととし、その床面積は、1室当たり7.43平方メートル以上の個室とすることが望ましいが、個室以外の宿泊室を設ける場合、その定員は、1室当たり4人以下とすることとする。

また、その面積は、7.43平方メートルに宿泊サービスの利用定員から個室の定員数を減じた数を乗じて得た面積以上とするものとする。

(イ) 個室以外の宿泊室を設ける場合、その構造は利用者のプライバシーが確保されたものとする。こと。プライバシーが確保されたものとは、例えば、パーティションや家具などにより利用者同士の視線の遮断が確保されるものである必要があるが、壁やふすまのような建具まで要するものではない。この場合において、パーティションや家具などを用いるときは、当該遮断物について転倒防止のための措置を図ること。ただし、カーテンはプライバシーが確保されたものとは考えにくいことから認められない。

また、利用者の希望等により処遇上必要と認められる場合を除き、男女が同室で宿泊することがないように配慮すること。

#### イ 消火設備その他の非常災害に際して必要な設備

消防法その他の法令等に規定された設備を確実に設置すること。

### 第4 運営に関する指針

#### 1 内容及び手続の説明及び同意

宿泊サービス事業者は、宿泊サービス提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、10に定める事業の運営についての重要事項に関する規程の概要、責任者の氏名、宿泊サービス従業者の勤務体制その他利用申込者の宿泊サービスの選択に資すると認められる事項を記した文書を交付して説明を行い、宿泊サービスの内容及び利用期間等について利用申込者の同意を得ること。

#### 2 宿泊サービス提供の記録

宿泊サービス事業者は、宿泊サービスを提供した際には、提供日、提供した具体的な宿泊サービスの内容及び利用者の心身の状況その他必要な事項を記録するとともに、利用者からの申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法により、その情報を利用者に対して提供すること。

### 3 宿泊サービスの取扱方針

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者が法第41条第1項に規定する居宅要介護被保険者の場合においては、要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症の状況等利用者の心身の状況を踏まえて、日常生活に必要な援助を妥当かつ適切に行うこと。

また、利用者が法第53条第1項に規定する居宅要支援被保険者の場合においては、利用者ができる限り要介護状態とならないで自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とするものであることを常に意識してサービスの提供に当たること。

- (2) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスの提供に当たっては、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対し、宿泊サービスの提供方法等について、分かりやすいように説明を行うこと。
- (3) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急かつやむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為（以下「身体的拘束等」という。）を行ってはならないこと。
- (4) 宿泊サービス事業者は、(3)の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急かつやむを得ない理由を記録すること。
- (5) 宿泊サービス事業者は、自らその提供する宿泊サービスの質の評価を行い、常にその改善を図ること。

### 4 宿泊サービス計画の作成

- (1) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスをおおむね4日以上連続して利用することが予定されている利用者については、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境等を踏まえて、利用者が利用する指定地域密着型通所介護事業所等におけるサービスとの継続性に配慮して、当該利用者の指定居宅介護支援事業者等と連携を図った上、具体的なサービスの内容等を記載した宿泊サービス計画を作成すること。

この場合において、4日未満の利用であっても反復的、継続的に利用することが予定されている利用者については、宿泊サービス計画を作成し宿泊サービスを提供すること。

- (2) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービス計画について、居宅サービス計画等を十分に勘案して作成するものとし、宿泊サービスの利用が第1の3(4)に適合するよう、指定居宅介護支援事業者等と密接に連携を図ること。
- (3) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービス計画の作成に当たっては、その内容につ

いて、利用者又はその家族に対して説明し、利用者の同意を得るとともに、作成した計画を利用者に交付すること。

## 5 介護

- (1) 介護は、利用者の心身の状況に応じ、利用者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう、適切な技術をもって行うこと。
- (2) 宿泊サービス事業者は、利用者の心身の状況に応じ、適切な方法により、排せつの自立が維持促進されるように必要な援助を行うこと。
- (3) 宿泊サービス事業者は、おむつを使用せざるを得ない利用者のおむつを適切に取り替えること。
- (4) 宿泊サービス事業者は、(1) から (3) までに定めるほか、利用者に対し、離床、着替え及び整容その他日常生活上の世話を適切に行うこと。

## 6 食事の提供

- (1) 宿泊サービス事業者は、栄養並びに利用者の心身の状況及びし好を考慮した食事を、適切な時間に提供すること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、利用者が可能な限り離床して、食堂で食事を摂ることを支援すること。

## 7 健康への配慮

宿泊サービス事業者は、当該指定地域密着型通所介護事業所等において把握している利用者の健康に関する情報に基づき、必要に応じて主治の医師や指定居宅介護支援事業者等と連携し、常に利用者の健康の状況に配慮した適切な宿泊サービスを提供すること。

## 8 相談及び援助

宿泊サービス事業者は、常に利用者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者又はその家族に対し、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行うこと。

## 9 緊急時等の対応

宿泊サービス事業者は、現に宿泊サービスの提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要なときは、速やかに主治の医師又はあらかじめ協力医療機関を定めているときは、協力医療機関への連絡を行う等の必要な措置を講ずること。

## 1 0 運営規程

宿泊サービス事業者は、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規程（以下「運営規程」という。）を定めておくこと。

- (1) 事業の目的及び運営の方針
- (2) 従業者の職種、員数及び職務の内容
- (3) サービス提供日及びサービス提供時間
- (4) 利用定員
- (5) 宿泊サービス内容及び利用料その他の費用の額
- (6) 宿泊サービス利用に当たっての留意事項
- (7) 緊急時等における対応方法
- (8) 非常災害対策
- (9) その他運営に関する重要事項

## 1 1 勤務体制の確保等

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者に対し適切な宿泊サービスを提供できるよう、宿泊サービス従業者の勤務の体制を定めておくこと。
- (2) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービス従業者によって宿泊サービスを提供すること。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りではない。
- (3) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービス従業者の資質の向上のために、その研修の機会を確保すること。

## 1 2 定員の遵守

宿泊サービス事業者は、運営規程に定める利用定員を超えて宿泊サービスを提供してはならない。

## 1 3 非常災害対策

宿泊サービス事業者は、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び地域住民等との連携体制を整備し、それらを定期的に宿泊サービス従業者に周知するとともに、定期的に夜間を想定した避難及び救出その他必要な訓練を行うこと。

## 1 4 衛生管理等

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者の使用する施設並びに食器その他の設備及び飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講じること。

- (2) 宿泊サービス事業者は、当該宿泊サービス事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように必要な措置を講ずること。

#### 1.5 掲示

宿泊サービス事業者は、当該宿泊サービス事業所の見やすい場所に、運営規程の概要、責任者の氏名、宿泊サービス従業者等の勤務の体制、苦情処理の概要及び緊急時の避難経路その他利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示すること。

#### 1.6 秘密保持等

- (1) 宿泊サービス従業者は、正当な理由なく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らさないこと。
- (2) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービス従業者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないように、必要な措置を講ずること。
- (3) 宿泊サービス事業者は、指定居宅介護支援事業者等との連携において、宿泊サービス事業所における利用者の個人の情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意をあらかじめ文書により得ておくこと。

#### 1.7 広告

宿泊サービス事業者は、宿泊サービス事業所について広告をする場合においては、その内容を虚偽又は誇大なものとせず、介護保険サービスとは別のサービスであることを明記すること。

#### 1.8 苦情処理

- (1) 宿泊サービス事業者は、提供した宿泊サービスに係る利用者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講ずること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、(1)の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録すること。

#### 1.9 事故発生時の対応

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者に対する宿泊サービスの提供により事故が発生した場合は、市、当該利用者の家族、当該利用者に係る指定居宅介護支援事業者等に連絡を行うとともに、必要な措置を講ずること。



- (2) 宿泊サービス事業者は、(1)の事故の状況及び事故に際して採った処置について記録すること。
- (3) 宿泊サービス事業者は、利用者に対する宿泊サービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行うこと。

## 20 宿泊サービスを提供する場合の届出

- (1) 指定地域密着型通所介護事業所等が指定地域密着型通所介護等の提供以外の目的で、指定地域密着型通所介護事業所等の設備を利用し、宿泊サービスを提供する場合には、宿泊サービスの内容を宿泊サービスの提供開始前に市長に届け出ること。  
なお、当該届出については別記様式及び別記付表に基づいて行うこととし、当該届出内容は法第115条の35の介護サービス情報の基本情報として、千葉県知事に報告すること。
- (2) 指定地域密着型通所介護事業者等は(1)で届け出た内容に変更があった場合は、別記様式及び別記付表に基づき、変更の事由が生じてから10日以内に市長に届け出ること。
- (3) 指定地域密着型通所介護事業者等は、当該宿泊サービスを休止又は廃止する場合には、別記様式により、その休止又は廃止の日の1月前までに市長に届け出ること。
- (4) 市長は、宿泊サービス事業者が第1の4(3)について適切に対応するため、必要に応じて市関係所属及び消防署等関係機関に対し、(1)から(3)までに係る届出等の内容について情報提供をすることができる。
- (5) 市長は、(1)から(3)までに係る届出内容について、介護サービス情報の公表によるほか、市ホームページ等において、必要に応じて別途公表することができる。

## 21 調査への協力等

宿泊サービス事業者は、提供した宿泊サービスに関し、利用者の心身の状況を踏まえ、妥当かつ適切な宿泊サービスが行われているかどうかを確認するために市が行う調査に協力するとともに、指導又は助言を受けた場合には必要な改善を行うこと。

## 22 記録の整備

- (1) 宿泊サービス事業者は、従業者、設備及び備品に関する諸記録を整備しておくこと。
- (2) 宿泊サービス事業者は、利用者に対する宿泊サービスの提供に関する次に掲げ

る記録を整備し、その完結の日から5年間保存すること。

ア 2に定める具体的な宿泊サービス提供の内容等の記録

イ 3(4)に定める身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急かつやむを得ない理由の記録

ウ 4に定める宿泊サービス計画

エ 18(2)に定める苦情の内容等の記録

オ 19(2)に定める事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録

附 則(平成〇〇年〇〇月〇〇日決裁28佐高第961号)

このガイドラインは、平成 年 月 日から施行する。

別記付表

指定地域密着型通所介護事業所等における宿泊サービスの実施に関する 
{

 開 始  
 変 更  
 休 止・廃 止
 
}
 届出書

年 月 日

宿泊サービスの開始・変更・廃止・ 休止予定年月日（既に開始している 場合はその年月日）		年 月 日				
事業所名						
事業所番号		/				
人員配置の状況		緊急対応要員 の確保状況		夜勤 名 <input type="checkbox"/> 連絡体制整備		
宿泊室の状況		男女別室への配慮		有 ・ 無		
防災対策の状況	消防法令上の区分	消防法施行令別表第1 (6)項ロ ・ (6)項ハ				
	消防計画の作成	消防計画の作成		有 ・ 無		
	消防用設備等 の状況	防災物品の使用	有 ・ 無		誘導灯	有 ・ 無
		避難経路の掲示	有 ・ 無		/	
	避難訓練	年に 回実施			夜間想定訓練	有 ・ 無
	消防署との連携	有 ・ 無				

別記様式

指定地域密着型通所介護事業所等における宿泊サービスの実施に関する  
 (開 始) 届出書  
 (変 更) ※1  
 (休 止・廃 止)

年 月 日

(宛先) 佐倉市長

法人所在地  
 名 称  
 代表者氏名

㊟

基本情報	事業所情報	フリガナ			事業所 番号						
		名称									
		フリガナ			連絡先	— —					
		代表者氏名				(緊急時) — —					
	所在地	(〒 — )									
	宿泊サービスの開始・変更・廃止・休止予定年 月日 (既に開始している場合はその年月日)			年 月 日							
宿泊サービス	利用定員	人	提供日	月	火	水	木	金	土	日	
	提供時間	～	その他年 間の休日								
	1泊当たりの 利用料金	宿泊		夕食			朝食				
		円		円			円				
人員関係	人員	宿泊サービスの提供時間帯を通じて 配置する職員数	人	時間帯で 増員 (※2)	夕食介助	: ~ :	人	朝食介助	: ~ :	人	
		配置する職員の 保有資格等	看護職員・介護福祉士・左記以外の介護職員・その他有資格者 ( )								
設備関係	宿泊室	個 室	合 計	床面積 (※3)							
			( 室)	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )		
		個室以外	合 計	場 所 (※4)	利用定員	床面積 (※3)	プライバシー確保の方法 (※5)				
			( 室)	( )	( 人)	( m <sup>2</sup> )					
				( )	( 人)	( m <sup>2</sup> )					
	( )			( 人)	( m <sup>2</sup> )						
	( )	( 人)		( m <sup>2</sup> )							
消防設備	消火器	有 ・ 無		スプリンクラー設備			有 ・ 無				
	自動火災報知 設備	有 ・ 無		消防機関へ通報する火災 報知設備			有 ・ 無				

- ※1 事業開始前に届け出ること。変更の場合は変更箇所のみ記載すること。
- ※2 時間帯での増員を行っていない場合は記載は不要
- ※3 小数点第二位まで (小数点第三位以下を切り捨て) 記載すること。
- ※4 指定通所介護事業所の設備としての用途を記載すること。(機能訓練室、静養室等)
- ※5 プライバシーを確保する方法を記載すること。(衝立、家具、パーテーション等)